



TITLE:

表紙・目次 (泌尿器科紀要 第26巻
第3号) 編集後記・編集委員・購読
要項・投稿内規

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙・目次 (泌尿器科紀要 第26巻第3号) 編集後記・編集委員・購読要
項・投稿内規. 泌尿器科紀要 1980, 26(3): 386-386

ISSUE DATE:

1980-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/122600>

RIGHT:

泌 尿 器 科 紀 要

第 26 巻 第 3 号

1980年3月書館

ヒト腎細胞癌の基礎的研究	
第5報: ヒト腎細胞癌に由来する細胞株 OUR-10 の性質について.....松田 稔・ほか..... 265	
膀胱癌患者における血清蛋白の変動.....久住 治男・ほか..... 265	
腎癌の臨床 — 臨床症状, 臨床検査成績と	
予後との関係, および転移を有する症例について.....岩崎 卓夫・ほか..... 273	
人工透析に関する臨床的研究 (第4報)	
—免疫学的検討.....細川 進一・ほか..... 285	
人工透析に関する臨床的研究 (第5報)	
—血清 β_2 -マイクログロブリンについて.....細川 進一・ほか..... 289	
人フィブリノーゲンを用いた Coagulum	
Pyelolithotomy の経験.....戎野 庄一・ほか..... 295	
貫通法 (Free-end 法) による尿管膀胱新吻合術.....湯浅 誠・ほか..... 303	
インタコフォレーシスによる尿路結石の分析.....藤田 公生・ほか..... 309	
赤血球増多症を伴った腎細胞癌の2例.....深津 英捷・ほか..... 313	
サンゴ状結石に合併した腎細胞癌の1例.....津久井 厚..... 321	
Unroofing をおこなった腎杯憩室の1例 (英文).....山崎 章・ほか..... 327	
膀胱外反症を伴った prune belly syndrome の1例.....佐久間 芳文・ほか..... 335	
精管開口異常.....三浦 猛・ほか..... 345	
前立腺肥大症に対するアンチアンドロゲン剤 (TSAA-291) の臨床治験	
—週 200mg, 400mg, 600mg 投与の比較.....志田 圭三・ほか..... 353	
前立腺癌に対する Estramustine phosphate (Estracyt) の臨床治験.....小屋 淳・ほか..... 369	
慢性尿路感染症における Sulfamethoxazole-Trimethoprim	
合剤の使用経験.....大江 宏・ほか..... 377	
各種尿路感染症に対する Cefradine の使用経験.....森田 隆・ほか..... 381	

CONTENTS

A Fundamental Study of Renal Cell Carcinoma	
Part 5: Establishment and Characterization of a New Cell	
Line Derived from Human Renal Cell Carcinoma.....M. Matsuda et al.... 253	
Dysproteinemia in Patients with Bladder Cancer.....H. Hisazumi et al.... 265	
Renal Cell Carcinoma — Twenty-Three Years of Experience at	
Kyoto University Hospital.....T. Iwasaki et al.... 273	
Clinical Studies on Hemodialysis (the Fourth Report)	
—An Immunological Study of the Patients.....S. Hosokawa et al.... 285	
Clinical Studies on Hemodialysis (the Fifth Report)	
—Serum- β_2 -Microglobulin in Hemodialysis Cases.....S. Hosokawa et al.... 289	
An Experience of Coagulum Pyelolithotomy Using Human Fibrinogen.....S. Ebisuno et al.... 295	
Ureteroneocystostomy Using Simple Pull-Through Technique	
(Free-End).....M. Yuasa et al.... 303	
Isotachopheresis for the Analysis of Urinary Tract Stone :	
A Preliminary Report.....K. Fujita et al.... 309	
Renal Cell Carcinoma with Erythrocytosis: Two Cases Report and	
Review of the Japanese Literature.....H. Fukatsu et al.... 313	
A Case of Renal Cell Carcinoma with Staghorn Calculus.....A. Tsukui..... 321	
Calyceal Diverticulum Treated by Unroofing of Diverticular	
Wall: Report of a Case.....S. Yamasaki et al.... 327	
Prune Belly Syndrome with an Extrophy of the Bladder:	
Case Report.....Y. Sakuma et al.... 335	
Ectopic Vas Deferens.....T. Miura et al.... 345	
Clinical Study of Anti-Androgen (TSAA-291) on Human Benign	
Prostatic Hypertrophy —Comparative Study of Administration of	
200mg/week, 400 mg/week and 600mg/week —.....K. Shida et al.... 353	
Clinical Trial of Estramustine Phosphate (Estracyt) for	
Prostatic Carcinoma.....A. Koya et al.... 369	
Treatment of Chronic Urinary Tract Infection by Sulfamethoxazole-	
Trimethoprim Combination Product.....H. Ooe et al.... 377	
Clinical Experience with Cefradine Capsules in Urinary Tract Infection.....T. Morita et al.... 381	

Editor: Prof. Osamu YOSHIDA, M.D.

Department of Urology, Faculty of Medicine,

Kyoto University, Kyoto Japan 606

京都大学医学部泌尿器科学教室

泌尿紀要

Acta Urol.

到着後 1ヶ月間

編 集 後 記

ガルブレイス教授の「不確実性の時代」が洛陽の紙価を高めたのはつい最近のことである。経済学の第一人者による、社会思想史、社会経済史の中の今世紀の位置づけともいえるこの著書は、大変読みごたえのあるものであった。

ところで医学あるいは医療における「不確実性」について、もっと深く思索してみる必要があるのではなかろうか。臨床医は医学の不確実性を前面に出すことをしないのが一般的傾向である。ところがこうした習性ともいえることが長年続いていると、いつの間にか医学における確実性のみが浮彫りにされ、それが当り前のことのように思われがちである。

筆者は決してデファンス・メディシンをすすめているのでもなく、加担しようとしているのでもない。臨床医学の不確実性を認識することの必要性を述べているのである。さもないと、わが国の医療がますます混乱する恐れがあるからである。

(O. Y.)

購 読 要 項

1. 発行は原則として毎月とし、年間購読者を会員とします。
2. 会員は年間予約購読料と 5,000 円（送料とも）前納していただきます。
分売は原則としていたしません。払込みは振替に限りです。口座番号 京都4772番 泌尿器科紀要編集部宛。外国は送料とも年間25ドルです。
3. 入会は氏名（フリガナ）、住所（雑誌郵送先）、勤務先をご記入のうえ編集部あて、はがきにてお申し込みください。

投 稿 内 規（1969年1月改正）

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他、和文または英文とします。
2. 原稿の長さは制限しませんが簡潔に願います。
3. 和文原稿は 400 字詰原稿用紙横書きとし、当用漢字、平かな、現代かなづかいを用い、片かなには「」を要しません。表、図の説明はなるべく英文にしてください。文中欧語学術用語は固有名詞、記号以外はキャピタルではじめる必要はありません。必ず英文抄録をつけ、これには英文の表題、所属機関名、ローマ字著者名も記入しておいてください。
英文抄録は詳細なものを歓迎します。ご希望の場合は当編集部にて作成しますので、抄録用の和文原稿を別につけてください。翻訳の実費は申し受けます。
4. 英文原稿の場合はタイプでダブルスペース打とし、和文表題と和文抄録をつけてください。
5. 数字はすべて算用数字を使用し、数量の単位は m, cm, mm, cc, ml, kg, g, mg, °C, μ , %, PH などを使用し、は不要です。また BUN IVP NPN PSP TUR なども、を要しません。
6. 表、図、写真などはすべて別紙とし、説明は和文、英文を問わず Table 1, Fig. 2 等としてください。
7. 文献の書式は次のようにしてください。
A 雑誌の場合 著者名：誌名、巻数：頁数、西暦年次。（論文題名は自由です）
文献名は正式略称を用いてください。
例：日泌尿会誌、臨床皮泌、皮と泌、泌尿紀要、臨泌；J. Urol., Invest. Urol., Zschr. Urol. 等。
B 単行本の場合 著者氏名：書名、版数、Vol. 数、p. 数、発行所、出版地、年次。
8. 校正は初校のみ著者にもお願いし、再校以降は編集部のみがおこないます。著者複数の場合、校正責任者をお示しください。
9. 原稿は返却いたします。
10. 原稿到達日を受付日とし、予約による受付はいたしません。
11. 原稿送り先は、〒606 京都市左京区聖護院 京大病院 泌尿器科紀要編集部、書留便。

泌尿器科紀要 第26巻 第3号	1980年3月25日 印刷	1980年3月31日 発行
創刊 稲田 務	顧問 加藤 篤 二	定価 500 円(送料別)
発行 吉田 修	発行所 泌尿器科紀要編集部	

〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京都大学医学部泌尿器科学教室内 電話(075)751-3327(直通)
印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入
